

美學の役割も、決して無視することができない。すでに全國の美術教育者を會員とする日本美術教育學會が京大を本部として組織され、私も「美術教育の原理」なる小著を出した。美學に對するこの方面よりの要環は、今後一段と増加するであらう。

以上によつて、私は美學界の近狀を概略的に敘述したつもりである。更ためて省りみるまでもなく、美學と諸藝術研究との關係は、はなはだ根源的でもあり、複雑でもある。美學を缺いて諸藝術研究は成り立たず、諸藝術研究を除いて美學は成り立たない。しかも純粹な美學理論と美術理論と音楽理論は別である。だから現に諸藝術を對象とする學會の會員が多くは美學會の會員でもあるやうに、いはゆる藝術諸學協議會を構成する學會の關係は、更に緊密化されて然るべきである。むしろ一步を進めて、これらの學會を一本の學會に屬する諸分科の如きものとして再編することが、理論的には最も適切であると思はれるが、現狀は遺憾ながらそこまで行つてはゐない。今後に残された切實な課題である。

(筆者 京都大學文學部〔美學美術史〕教授)

## 彙報

### 受贈雜誌

- |          |                                     |
|----------|-------------------------------------|
| 宗教研究     | (日本宗教學會)<br>第一二二號                   |
| 經濟論叢     | (京都大學經濟學會)<br>第七十卷第五號、第六號           |
| 山口經濟學雜誌  | (山口大學經濟學會)<br>第三卷第二號                |
| 一橋論叢     | (東京商科大学一橋學會)<br>第七十八卷第六號、第二十九卷第一號   |
| 人文研究     | (大阪市立大學文學會)<br>第三卷第十二號、第四卷第一號       |
| 基督教研究    | (同志社大學神學部內基督教研究會)<br>第二十六卷第二號       |
| 經濟學雜誌    | (大阪商科大学經濟研究會)<br>第二十七卷第一、二、三號、第四、五號 |
| 國語國文     | (京都大學國文學會)<br>第二十一卷第七號              |
| 文化       | (東北大學文學會)<br>第十六卷第六號                |
| 立命館文學    | (立命館大學人文科學研究所)<br>第九〇、九一號           |
| 橫濱市立大學紀要 | (橫濱市立大學)<br>第十三號                    |
| 山口大學文學會誌 | (山口大學文學會)<br>第三卷第二號                 |